

# 問題に捉われず、 取越苦勞するなかれ！

神の子は神が育て、人間の子は人間が育てる

多くの母親は子供のことをあまりに取り越し苦勞するために、かえって子供に悪思念を放送して子供の健康や運命を害している。ある母親は一瞬間でも自分の眼の前  
にいないと心配でたまらないのである。彼は自分の想像  
の中で、躓いて転んでいる自分の子供の姿を思い浮かべ  
る。自動車にひかれて死にかかっている自分の子供の姿  
を思い浮かべる。水に陥って溺れかかっている自分の子  
供の姿を思い浮かべる。世の母親よ、なぜあなたはこの



反対をしてはいけないのか。こんな取り越し苦勞が起  
るのは、子供を神の子だと思わないで人間の子だと思  
うからである。神の子は神が育て、人間の子は人間が育  
てる。人間の子だと思うものは終世、取り越し苦勞をし  
て育てねばならぬ。子供を神の子だと思うものは、子供  
を尊敬してできるだけその世話をさせてはいただくが、  
神が守って貰うと信ずるがゆえに取り越し苦勞は必要  
はないのである。人間力で子供を生かしようと思うなら  
終日終夜起きて子供の番をしておれ。それはできな  
らう。できない間に子供を生かしているのは神の力であ  
る。

（頭注版『生命の真相』第14巻128頁）

## 「材料出尽し」は「お終い」である

一つの善き事件が起って、魂が悦ぶと、また次に悦ぶような事件が起って来る。それは心に悦びの波長が起れば類を以て集るの原理に従って、類似の喜びの事件が起って来るからである。之に反して、一つの不幸な事件が起って悲しみに心が掻き乱されると、また相ついで不幸な事件が起って来る。これもまた類似の波長が互いに相招ぶ原理によるのである。だから、「悪い事は重なって来るものだ」と言う。併し、そう考えて「不幸」の来ることを心に描いて予期しておれば更にまた類似の「不幸」がやって来る惧れがあるから、不幸が来たら、心をクラリと一転して明るい想念の方へ心を振り向けることが必要である。これが「難有れば有り難しと思え」と云う諺がある所以である。形にあらわれたる不幸は、過去の自分の心の力が描いた「不幸」が象にあらわれて消え行く姿であるから、「材料出尽しはお終い」と悦んで、心



を光明に転ずべしである。

(新版『真理』第9巻104頁)

## 寢床にまで昼の悩みを持ちこすな

「その日の煩いはその日にて足れり。」決して其の日の悩みを寢床まで持ち越しますまい。どんな荒波も時が経過したら鎮まる時が来るのです。それと同じく、あなたの身边に起った荒波のような煩いも、結局は鎮まるときが来るのです。あなた自身の心を鎮めることが第一です。あなたが心を鎮めれば、周囲に起った混乱は結局は自壊作用を起して鎮まってしまうほかはないのです。どんな混乱のときにも、唯一カ所、あなたの生命の奥の中枢に、恰も「颯風の眼」のように少しも混乱しない「中心」があるのです。それが「実相のあなた」です。どんな混乱のときにも此の「実相の自分自身」にしがみつきなさい。其処から心の平和と調和と不動心とを見出しなさい。「わが魂の底の底なる神よ、無限の力湧き出でよ」この神呪(まじない)のコトバを繰返し繰返し御念じなさい。(新版『真理』第9巻106～107頁)

## 取越苦勞を止めましょう

多くの人々の心配は謂わば「取越苦勞」と云うものです。来るか来ないか分らないうちに心配して心を苦しめているに過ぎないのです。「死」さえも、実際それがおとずれて来たときには、静かなる調和でしかありません。「死」に近づく道中の「取越苦勞」のみが却って苦しいに過ぎません。一切の悩みは、恐れずに近づいてみたらばそれは結局「無」だと云うことがわかるのです。何故なら「悩み」と云うものは「実在界」には「無い」からです。どんな悲しみも苦しきも、通過して振り返ってみたらば「咽喉もと過ぐれば熱さを忘れる」ほどのことに過ぎないのです。何故なら、それは永遠の存在ではないからです。神のみが、ただ善のみが、幸福のみが永遠の存在なのです。「神」の眼で見ると何処にも不幸はないのです。その「神」があなたの内に宿っているのです。

(新版『真理』第9巻107頁)



## 汝の悩みを神にあずけよ

多くの人達は、平和な睡眠時間をとらないために、長時間眠っていないながら尚くたびれているのです。寢床へはいるときには、是非昼中又は仕事時間中のいろいろの悩みから完全に解放されなければなりません。睡眠中の生活を全然昼間の悩みから遮断してしまふのです。寢床へ入ったら何にも仕事のことや家庭のいざこざの事などは考えないのです。問題が残っていても寢床の中で考えて解決しようなどとは考えないで、その問題を神様に預けてしまふのです。その預け方を教えましょう。「神様、あなたは無限の愛と智慧とを持っていらっしゃいます。だから、どんな問題でも解決出来るのです。この問題を、神様あなたに預けます。その間に時期が来て参りましたら此の問題を解決してくださいませ」こう祈って、心を空っぽにして、神に托せて眠ってしまふのであります。

(新版『真理』第8巻352頁)